

令和3年度 事業計画

所属	事業計画
法人全体	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法人全体の収支改善及び健全な財務体質の維持に向けた予算編成、財務戦略の策定の継続 2. 事業計画の着実な遂行、実行の検証、成果の確認、課題の改善 3. 医療系・健康科学系の学部学科等の設置計画 4. 安全保障輸出管理業務に係る法人内体制の整備 5. 物的・人的医療資源の最大限の有効活用 6. 臨床研究の活性化 7. 日本医科大学のブランド強化、ポストコロナ時代を見据えた教育システムの構築・充実、個別化教育体制の構築、共同研究施設の改革、教育研究環境の一層の充実、図書館の研究情報センター化 8. 日本獣医生命科学大学のブランド強化、研究における外部からの競争的資金の獲得、付属動物医療センターの動物医療体制の充実、大学機関別認証評価及び獣医学教育評価の受審に向けた取り組み、富士アニマルファームの再開発 9. 看護専門学校の教育環境の充実（オンライン授業、シミュレーション教育の充実、アクティブラーニング）、令和4年度保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴う新カリキュラムへの対応、日本医科大学看護教育100周年記念誌の制作 10. 付属病院3期工事の完成によるアクションプラン21千駄木地区再開発の完了 11. 武蔵小杉キャンパス再開発における新武蔵小杉病院の竣工、開院 12. 多摩永山地区の再開発計画の継続 13. 千葉北総病院と成田国際空港クリニックの連携強化
日本医科大学	<ol style="list-style-type: none"> 1. ポストコロナ時代を見据え、シミュレーション教育の環境整備、新規テクノロジー（VR機器など）の新しい臨床教育のシステムを構築する。 2. 医学教育センターに設けた個別化教育推進部門において、引き続き個別化教育に専門的に取り組む体制を構築する。 3. 図書館内の情報調査業務から分析業務専門の担当をおき、引用文献データベースや研究分析ツールによる本学の学術情報の分析を行う。 4. 研究部共同研究施設の改革について、ワーキンググループを設置し、問題点等の検討を行う。 5. 令和2年度千葉北総キャンパス内に大学院棟（法医学）が新設され、運用開始したが、引き続き環境整備を行う。また、コロナ禍においてもクリクラ棟がより有効的に活用できるよう環境整備を行う。

令和3年度 事業計画

所属	事業計画
日本獣医生命科学大学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中長期計画(第2期)の策定と施設整備計画の継続的取組みを推進する。 2. 教育課程編成方針の実行や学修成果の可視化、コロナ禍にも対応する教育方法等(遠隔授業等)の改善等による質の高い授業の在り方を推進する。 3. ICT・情報設備の整備や学内のセキュリティ強化に向けた取組みにより、安心安全な学修環境を構築する。 4. 生命科学総合研究センターの実質化として研究環境・支援体制を推進する。 5. 志願者の増加策の推進と入学定員の確保に向けた取組みを強化する。 6. 令和4年度機関別認証評価と令和5年度獣医学教育評価の受審に向けた取組みを推進する。 7. 動物医療センターにおける診療単価の見直しや土曜診療の充実、初診患者数の受け入れを推進する。 8. 富士アニマルファームの教育研究等における利活用を推進する。
看護専門学校	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和4年度 新カリキュラムを作成する。 2. ICT環境を充実する。 3. 講義収録システムを導入する。 4. 日本医科大学看護教育100周年記念誌を制作する。 5. 多様なシミュレーターを学内実習及び学内演習に欠かさず活用する。
付属病院	<ol style="list-style-type: none"> 1. PRP(整形外科)及びPOEM(消化器・肝臓内科)の実施件数拡大。 2. MICS(低侵襲)弁膜症手術の実施件数拡大。(心臓血管外科) 3. 世界で初めて開発した肺癌に対する新しい気管支鏡治療について、積極的な広報活動を行う(呼吸器外科) 4. 内視鏡下脊椎固定術(胸椎又は腰椎前方固定)の実施。(整形外科) 5. 骨盤臓器脱に対する仙骨腔固定術(女性診療科・産科) 6. ダヴィンチ手術の術式拡大(腎臓疾患・膀胱疾患)(泌尿器科) 7. ダヴィンチ手術の施設基準申請必要数の達成を目指す。
武蔵小杉病院	<ol style="list-style-type: none"> 1. 川崎南部の中核病院として新病院の強み(最新のハード面)を活かし、患者受け入れ増を目指す。 2. 救急・総合診療センターを中心とした救急機能の充実について、断わらない医療を実践し、応需率向上を目指す。 3. 産科28床、小児科30床の専用病床、また5つの分娩室、NICU15床、GCU6床、産科2F小児科1Fに設置する専用外来、産科特別食(お祝い膳を含む)などの新病院における充実した機能を活用し、患者サービスの向上を図る。 4. 新病院における中央手術室の数・広さの拡大、口腔科(周術期)の新設、麻酔科管理リカバリー室の設置、ICT、栄養科、PSC、医療連携など、病院全体で構成するチーム医療によって周術期機能を拡充・強化する。

令和3年度 事業計画

所属	事業計画
武蔵小杉病院	5. 診療・放射線・看護・医薬品・医療機器・事務他病院内の業務において、インシデント・アクシデントを日々分析し改善すること、及びICT チームの拡充などに注力する。 6. 患者支援センター業務のスピードアップと共に接遇対応の向上を目指す。
多摩永山病院	1. 救急・総合診療センターの運用を総合診療科主導で進め、救急患者の受け入れを円滑にする。 2. 乳腺科が単独科として独立したメリットを生かし、患者の受け入れに繋げる。 3. 電子カルテの効率的な運用により、患者及び職員の負担軽減を目指す。
千葉北総病院	1. 新たに改修・病床再編された CCM/ICU を基軸とした継続的な増収 2. がん診療連携拠点病院の指定に伴う診療実績の向上（「緩和ケア診療実績」の強化、遺伝子外来の充実、がん周術期サポート外来の向上、各種加算要件の充足） 3. 令和3年度外国人患者受け入れ医療機関認証制度（JMP）取得、JCI 認定医療機関（Joint Commission International）受審準備開始（3年計画）
腎クリニック	1. 外来透析導入患者の受け入れ促進 2. 透析以外の血液浄化療法の患者の受け入れ促進
呼吸ケアクリニック	1. 関連施設を含む『オール日医』を念頭に置いた受診患者の受け入れ（関連病院を中心に各施設の特徴を把握し、呼吸器内科領域において当クリニックが果たすことのできる役割を周知。紹介並びに逆紹介を推し進める。）
健診医療センター	1. コロナ禍の状況において、ネット広告などで積極的に広報活動を行う。
ワクチン療法研究施設	1. 他の医療機関との連携 2. 他の研究施設との連携 3. 免疫療法として SSM の有用性の理解促進
成田国際空港クリニック	1. 行政歯科検診実施機関の申請、人間ドック並びに健診メニューオプションの提案を行い、利用者の受け入れ増を図る。 2. 国際線の増発、東京オリンピック等のイベント開催による出入国の活発化に備え、PCR センターのブース増設やスタッフ増員を検討し、適正化を図る。
先端医学研究所	1. 社会連携講座【タンパク質間相互作用学講座（一部）】を基礎医学大学院棟他へ移設する。
国際交流センター	1. 国際交流会館の維持・管理を行う。 2. 本学訪問者の日本滞在期間中に有意義な学術交流活動を行えるようサポートする。 3. 協定校等の開拓による学部学生の交換留学を促進させる。 4. 日本医科大学医学部学生国際交流助成により、国際的な視野を持ち世界で活躍できる医師・医学者を育成するための経済的支援を行う。 5. 日本医科大学医学部海外留学奨学金による海外留学の経済的支援を行う。 6. 外国人留学者間の連携の相互理解及び教職員、学生と交流する機会を得る場として International Research Conference 後に懇親会を開催する。

令和3年度 事業計画

所属	事業計画
知的財産推進センター	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本法人の「知的財産評価基準」に沿った評価、維持活動、補助金獲得の観点からの知財管理を行う。 2. 各所属の研究支援部署と連携して、研究マネジメントの支援を行う。 3. 研究統括センターのリサーチアドミニストレーターと連携した業務を行う。
ICT推進センター	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各所属にて策定した大学ICT3か年計画を見直し及び実行を推進する。 2. 医療情報システムに関する中期計画を見直し及び実行を推進する。 3. 統一した各種システムに対して保守・運用費用を見直す。
研究統括センター	<ol style="list-style-type: none"> 1. 治験業務の推進を図るため、付属4病院の手続き等の統一、手順書、契約書の雛形の見直し、IRB電磁化、担当者の育成を行う。 2. 法人全体に倫理審査システムを本格導入し、業務の効率化を図る。 3. 法人全体としての、法令を遵守した研究推進体制を構築するため、現在の研究に関する規程全般を見直す。 4. 研究契約に関し、各所属の主管部署、法人本部総務部法務課と連携し、円滑な契約締結手続きを行う。 5. 利益相反マネジメント委員会事務局として、本法人における利益相反マネジメントに関する業務を実施する。 6. 不正防止関係の規程の再点検及び一本化のために、両大学の「研究活動に係る不正行為の防止及び公正性確保に関する規程」を見直す。 7. 「中央倫理委員会」の業務体制構築並びに法人全体の倫理委員会の体制をフォローする。
しあわせキャリア支援センター	<ol style="list-style-type: none"> 1. ダイバーシティ推進のために必要なアンケート調査を行い、令和元年度に実施した調査の結果と比較・検証する。 2. 文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ【牽引型】」の中間評価の実施、中間評価成果報告書の作成とヒアリング審査に向けての準備